

# フィールドデザイン論研究

研究代表者 古谷 誠章  
(創造理工学部 建築学科 教授)

## 1. 研究課題

日本社会では情報技術の発達や産業構造の変化、人口移動等による社会・経済情勢の変化に伴い、社会構造が急激に変化している。この変化に伴い各地の住民の生活は絶えず変化を求められており、しかしその変化に対応できず産業の衰退や人口減少といった問題に直面している市町村は少なくない。本研究では、行政区等における目に見えたコミュニティや範囲を超えた広域的な人・文化・地域を「フィールド」として捉え、社会経済情勢の変動と共に変化する住民生活や「フィールド」がもっている価値を発見し、それらを動かしているメカニズムを解明することで、各地の住民の生活が続き発展することが可能なデザイン手法の模索と提案を行う。行政区を超えた広域な地域「フィールド」づくりの推進や生活構築の観点から、地域に現存するリソースの見直し・住民のまちづくりへの参加等を通じて、地域リソースの有効な活用方法に関する具体的設計指針の改革が不可欠となっている。これら地域に関する問題に意欲的に取り組もうとする地方都市や建築・都市デザイン関連機関からの委託により具体的な実践に基づくこと、および本研究組織で過去行った10を超える事例の整理から固有な手法・提案から、フィールドデザイン論に展開していく。

## 2. 主な研究成果

2-1. 広島県大崎上島町のカフェ併設型コミュニティスペース「ミカタカフェ」1F改修プロジェクト

2-2. 上北山村の豊かな森を活かした地域活性化のための人材育成事業に係る調査研究

### 2-1. 広島県大崎上島町のカフェ併設型コミュニティスペース「ミカタカフェ」1F改修プロジェクト

広島県大崎上島町の古民家を子供の居場所として運営されているミカタカフェの1Fスペースを「食育のための場所」としてセルフビルドによって改修する。地元高校生を中心に地域の大人たちを巻き込み、協働ワークショップを目的としたフィールドワークが中心であり、地域住民たち主体となって翌年度以降も人々が出会う空間・場の形成を推進していくためのものである。7月末から8月初旬、9月中旬の2回に渡って、実際に現地で施工作業を行い「食育」を行う空間を現状のコミュニティスペースから範囲を広げた。

### 2-1-1. 「食育のための場所」としての改修箇所の検討

ミカタカフェの1Fスペースの掃除及びワークショップを行った。地元高校生や島民の方とワークショップを行い、現在のミカタカフェにて行われている食育活動の幅を広げるために1Fのどの箇所を活用し、どのような空間にしたいかを話し合った。1Fにおけるキッチンや衣装部屋、中庭に対して3案のデザイン提案を行った。



fig1. 台所土間拡張案

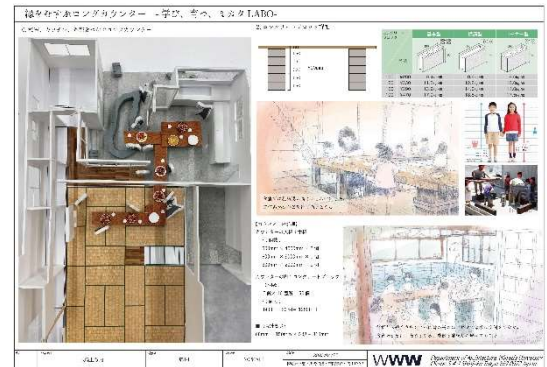


fig2. 可変式ロングテーブル案

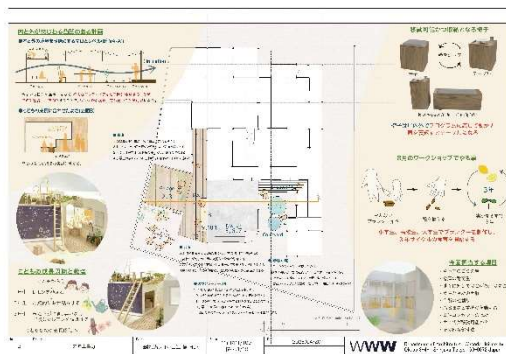


fig3. 中庭倉庫改修案



fig4. 古民家の改修箇所の検討

上記提案と現地視察における古民家の損壊状況から改修箇所を検討した結果、キッチンと隣接する畳の2部屋の改修を行うことに決定した。既存の畳の2部屋の床材を張り替え、改修したスペースを食育やその他のイベントで使える場としてデザインを行う方針で案を検討することになった。

### 2-1-2. 予算内で可能な施工デザインの検討

決定したデザイン方針のもと、実現可能な具体的提案の作成を行なった。新たに張り替える床材の検討を高校生とのオンライン協議にて決定し、十分な耐久性を備えた床の構造を検討した。地元ホームセンターの材木費用をもとに、必要部材・施工計画を作成した。



fig5. 高校生との共同作業による施工計画



fig6. オンライン協議の様子

### 2-1-3. 床張りと押し入れ・簀笥の解体

7月31日から8月4日にかけて施工を行った。既存床の古くなった材を撤去し、新たに断熱材の挿入と構造補強を行った。仕上げ材を畳からフローリングへと改修し、同時並行で次回施工の際に行う押し入れと簀笥の解体までを終えた。



fig7. 既存床の撤去



fig8. 床の構造補強と張替え



fig9. 押し入れと簀笥の解体

### 2-1-4. 押し入れ・簀笥の改修とカウンターの設置

9月16日から9月18日にかけて施工を行った。前回の施工にて解体した押し入れと簀笥を子供たちや現地住民が使えるよう改修を行ったことに加えて、外部にカウンターを設置することで内外を繋ぐ新たな食育活動が行えるよう改修した。



fig10. カウンターの設置



fig11. 押し入れと洋服簀笥の土壁を漆喰にて補修

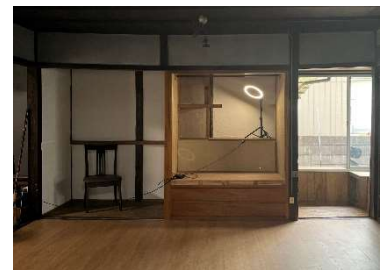


fig12. 改修後写真

## 2-2. 上北山村の豊かな森を活かした地域活性化のための人材育成事業に係る調査研究

本研究は早稲田大学理工学術院総合研究所と上北山村が、産業、文化、教育、地域づくり等の分野において地域振興および相互の交流を深めるとともに、地域の活性化と人材育成に寄与することを目的としている。

今年度の研究活動は、調査研究やアイデアの提案を行い、地域住民主体の村づくりを促進するため、ベンチ村プロジェクトへの参加や自然環境を活かしたプログラムを実施した。

### 2-2-1. ベンチ村プロジェクトへの参加

がんばろえ！かみきた主体のベンチ村プロジェクトに参加し、研究室として3つのベンチを設計・施工に関わり、上北山村の自発的な地域住民主体の村づくりを促進した。



fig13. 間伐材の皮剥作業



fig14. 橋の上ベンチ完成

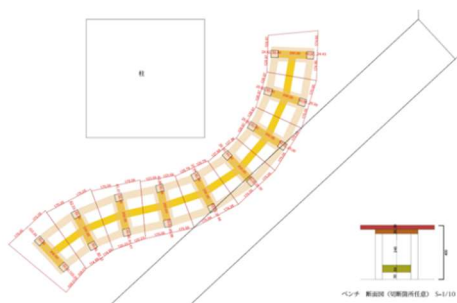


fig15. 役場前ベンチ設計図



fig16. 役場前ベンチ完成



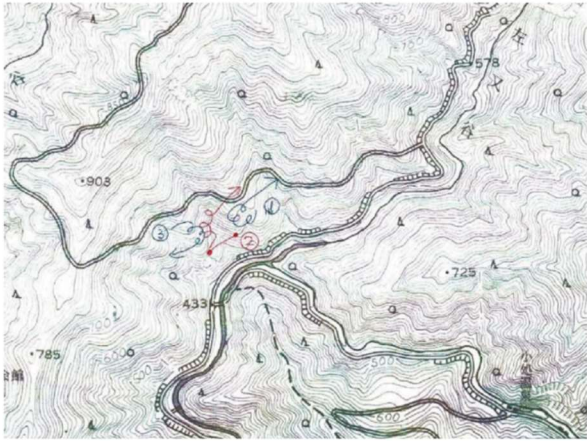
fig17. 仕上げ作業



fig18. 滝前ベンチ完成

2-2-2. 上北山村の豊かな森を活用した地域活性化のための生物・文化的資源調査

本研究を進めるにあたり、地域の環境特性及び現状を把握するために生物調査を実施した。研究を中心的に進めている小処エリア、和佐又エリアを中心に、猛禽類調査・鳥類調査・哺乳類調査を実施した。



小処エリア

| 2023 年 11 月 27 日 小処 |               |                                                                                  |                        |  |
|---------------------|---------------|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------|--|
|                     | ①             | ②                                                                                | ③                      |  |
| 種                   | クマタカ          | クマタカ                                                                             | ハイタカ                   |  |
| 年齢                  | 成鳥            | 成鳥                                                                               | 成鳥                     |  |
| 性別                  | オス            | メス                                                                               | オス?                    |  |
| 時間                  | 9:55-9:56     | 9:57-10:01<br>10:01-10:01<br>10:02-10:05                                         | 10:04-10:08            |  |
| 行動                  | 尾根上を旋回し、滑翔する。 | 斜面の落広樹に止まった。飛び立ち別の落広樹に止まる。飛び立ち、旋回し高度を上げる。ハイタカが接近しモビングを受ける。ハイタカと離れ、旋回し斜面の中腹に降下する。 | ②にモビングする。②と離れ旋回のち滑翔する。 |  |

| 2023 年 12 月 12 日 小処 |                               |  |  |  |
|---------------------|-------------------------------|--|--|--|
|                     | ①                             |  |  |  |
| 種                   | ハヤブサ                          |  |  |  |
| 年齢                  | 成鳥                            |  |  |  |
| 性別                  | 不明                            |  |  |  |
| 時間                  | 10:53-11:02<br>11:02-11:03    |  |  |  |
| 行動                  | 尾根上の枯れ木に止まっているのを確認。飛び立ち、滑翔する。 |  |  |  |

| 2023 年 12 月 13 日 小処地区 |              |  |  |  |
|-----------------------|--------------|--|--|--|
|                       | ①            |  |  |  |
| 種                     | ハヤブサ         |  |  |  |
| 年齢                    | 成鳥           |  |  |  |
| 性別                    | 不明           |  |  |  |
| 時間                    | 9:34-9:37    |  |  |  |
| 行動                    | 中空を旋回し、滑翔する。 |  |  |  |

fig19. 猛禽類調査の結果

2-2-3. 村の文化展でのポスター展示

これまでの現地調査や意見交換を踏まえ、ポスターを製作した。これまでの研究内容を多くの地域住民に認知してもらうことを目的に、上北山村文化展で展示を行った。



fig20. 制作したポスター

2-2-4. 旧山乃ホテルバンビ改修・プログラム提案

上北山村における新たな活動の拠点となるポテンシャルを持つ旧山乃ホテルバンビの改修提案及びプログラム提案を行った。

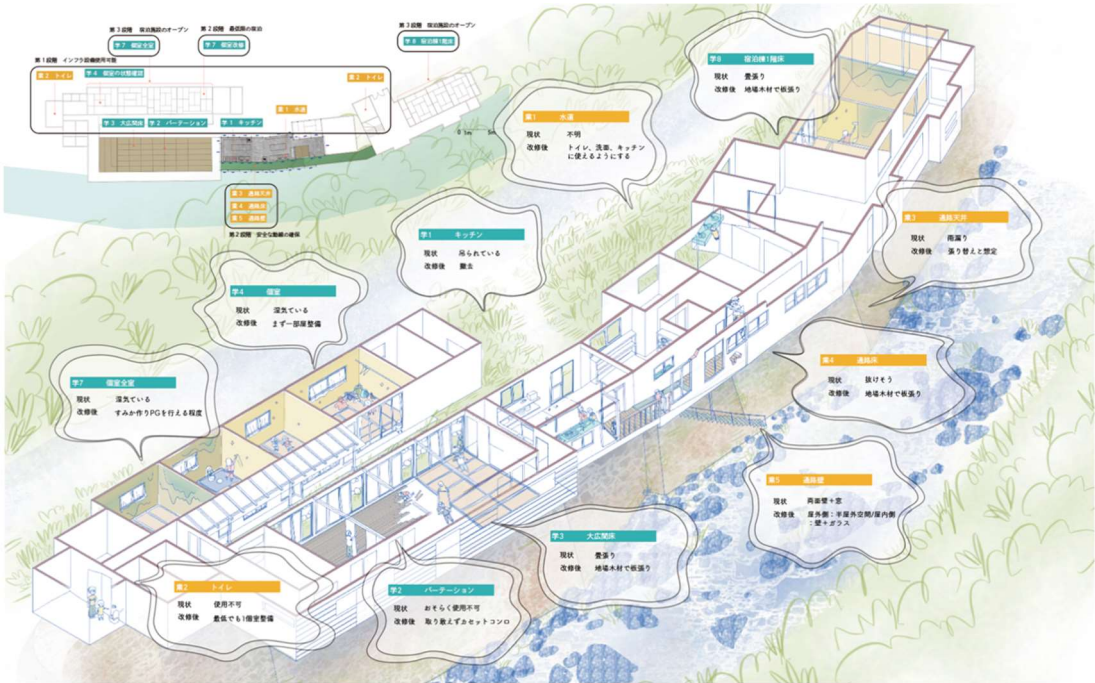


fig21. 旧山乃ホテルバンビ 改修案

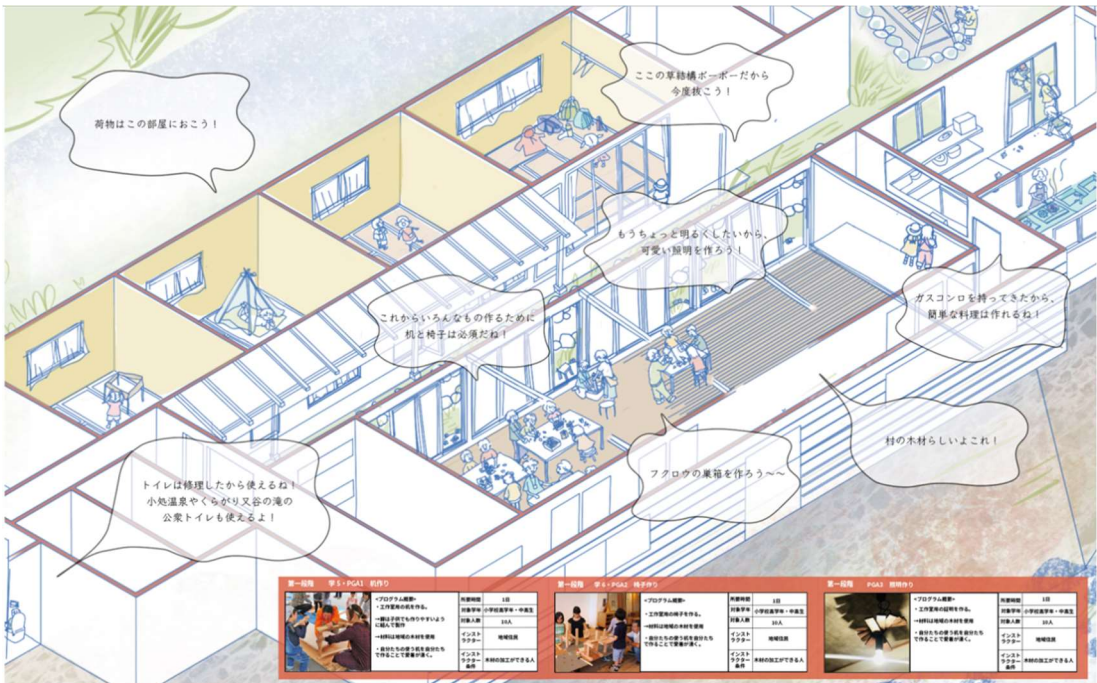


fig22. 旧山乃ホテルバンビ プログラム提案

### 3. 共同研究者

根本 友樹（創造理工学部・嘱託研究員）

王 薪鵬（創造理工学部・講師）

宮嶋 春風（創造理工学部・助教）

池田 理哲（創造理工学部・助手）

嵐 陽向（創造理工学部・助手）

### 4. 研究業績

特になし

### 5. 研究活動の課題と展望

#### 5-1. 広島県大崎上島町のカフェ併設型コミュニティスペース「ミカタカフェ」1F 改修プロジェクト

本研究では、ミカタカフェの1Fスペースを「食育活動のための場所」として地元高校生とのワークショップを基に改修を行った。ワークショップ内で実現できなかった、壁の色塗りやカウンターを用いたイベント等が現在では地元高校生や住民の方々によって自主的に行われており、協議から更なる発展を遂げ、改修が学びの機会となったと考えている。引き続き大崎上島内の古民家の改修を行うことで、学生への学習・啓蒙効果、および関わる地元住民への意欲向上を促進するための研究・活動を進めていきたい。

#### 5-2. 上北山村の豊かな森を活かした地域活性化のための人材育成事業に係る調査研究

本年度の活動では、昨年度の現地調査や意見交換を踏まえ、地域の活動拠点として旧山乃ホテルバンビの改修提案・プログラムの提案を行った。また、がんばろえ！かみきた主導のベンチ村プロジェクトに参加し、地域住民主体の村づくりを促進した。それらの活動をまとめたポスターを村の文化展にて展示したことで、本研究の認知拡大や、これからの村づくりに携わる人材確保に繋がると考えられる。

来年度以降は、引き続きベンチ村プロジェクトへの参加で上北山村の魅力を発信するベンチを設計・施工協力し、プロジェクトの発展を図る。また、引き続き旧山乃ホテルバンビをプログラム活動の拠点とし、地域住民参加の自然体験ワークショップを行っていきたい。